

みなさんの願いをまっすぐ市政に届けます。

ひめだ高宏ニュース

日本共産党 和歌山市公議員

No.1297

'20.6.16

6月定例会市議会が始まりました

河野防衛相が15日、陸上配備型迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」を秋田と山口に配備する計画(45004億円)を停止すると発表。安倍首相がトランプ米大統領に何度も使った「撤回・断念すべきです。さて、12日(金)6月定例会市議会が始まりました。今議会は質問者数の制約があり、私ひめだは一般質問をしません。

コロナ関連で議会費削減

12日の定例会市議会初日に全会派共同の議員発議により「和歌山市議会政務活動費の交付に関する条例の一部を改正する条例の制定に

ついて」を可決しました。政務活動費は月額10万円を所属議員数に応じて半額に引き下げます。日本共産党市議団は、各

種調査や資料の購入、定例会市議会ごとの市議会だより発行、議員事務所経費などに使用しています。各会派の使用状況は和歌山市議会ホームページで公表されています。

今回の削減は、コロナ関連で視察などが規制されていくこともあり、議会として対策費用を捻出することを目指す。今年度のみ月額3万円×12月×38人の1368万円減額すること。他に議会費の削減は、委員会の行政調査や外国出張費850000円、減額。議員連盟交付金150万円の減額で、合わせて総額2370万7000円の削減に。

25年表彰いただきました

12日の定例会市議会初日に政和クラブの北野均議員と私、ひめだは本会議場で25年の永年表彰を受けました。井上議長の祝辞に対して、北野議員が代表して謝辞。記者や支持者のみなさんの応援に感謝しています。

今週のフワッのん

持続化給付金中抜き?!

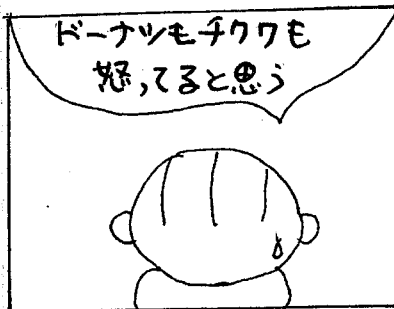
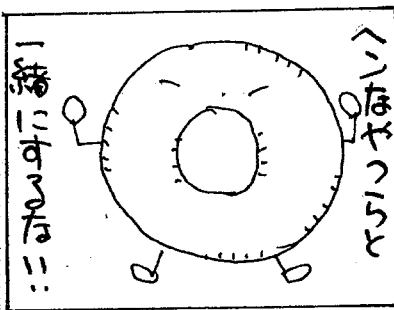
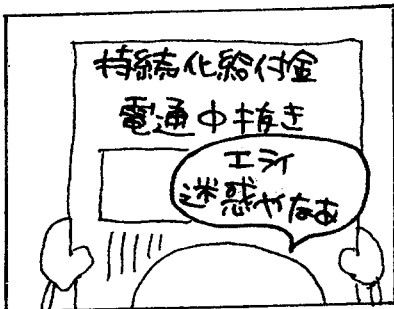
安倍政権は、これほどひどいことをするのかわりに「持続化給付金」中抜き「事業です。安倍首相の『世界で一番企業が活躍しやすい国』が、この水のかと思われ、腹が立つやら、情けないやら、涙が落ちるやぎれるようです。

持続化給付金は新型コロナウイルスの影響で収入が減った中小企業や個人事業主に支給する仕組みなので、

業務としては申請の受付、審査、支払いです。これを経産省がサービスデスク、推進協議会に委託。協議会が電通に再委託。電通が子会社に外注。子会社が孫請け会社に発注と、順に丸投げを繰り返した目的は、その段階ごとの中抜きだといわれています。電通やパンナからの出向者が中心の直接業務がでない協議会に経産省が業務委託したことが問題です。



ひめだ高宏



6 定例市議会・一般質問事項

順	議員名	質問事項
1	中庄谷 孝次郎 (日本維新の会)	新型コロナウイルスへの対策について (くろ政改革、学校運営について)
2	坂口 美子 (日本共産党)	生活保護行政について ・特別定額給付金給付事業について
3	西風 章世 (公明党)	新型コロナウイルス感染症禍における 支援について(市民事業者向け支援、給付金)
4	中村 元彦 (自由民主党)	コロナ禍及びコロナ禍収束後の 和歌山市の対応について
5	南 畑 ち代 (日本共産党)	和歌山山の環境保全について ・県民のトリップフリーについて
6	森下 さち子 (日本共産党)	教育行政について
7	山本 忠相 (民進クラブ)	Afterコロナ、Withコロナについて
8	吉本 昌純 (進志クラブ)	新型コロナウイルス関連について
9	北野 均 (政和クラブ)	和歌山市駅周辺の駅前再開発、地方自治 体の活性化等、補正予算編成の在り方

くんにちは 日本共産党です

選挙区公の証章

アベ政権が新型コロナウイルスの感染拡大に対応するとして編成した2020年度の第2次補正予算が成り立ちました。補正予算には、医療、雇用

中小業者、学生への支援など一定の拡充策が盛り込まれました。一方、予算の三分の一にあたる1兆円を使途を定めない予備費に充てたことは、大問題です。財政支出は国会の事前の議決によるとする。憲法の定め

がすやり方には賛成できないと、その一方で補正予算に反対しました。巨額の予備費が国会を開かなくして可能にするのも見過ごせません。「第2次」への備えをいじめ

本会議各委員会のインターネット配信を

今議会は、コロナ対策として一般質問の人数が少なくなりました。インターネットでは生中継と録画配信をします。和歌山市議会のホームページからご覧ください。

潮流

(20.6.16) 日刊和歌山

「井子どもたち」に少人数学級をプレゼントしよう。こんなフレーズがツイッターで広がっています。▼発端は10日の衆院予算委員会、志位和夫委員長の質問でした。「この愛情のこもった優しい言い方が好き」「つぶやいて気持ちが悪くなるタグだ」「実現したらなんてステキでしょう!」

と。「このタグ見たら、喉が詰まって涙が出てきた」との声もありました。▼「うちには聴覚が過敏だから、ガワザワも普段より少なくていいのかも」と、「密」の空間が1.5倍くらい多いのも親も、少人数は気持ちのゆとりも生み出します。「分散登校でやんちゃな子も来られるようになった。ちょっと騒いでもほかの子も気にしない」とある小学校教員が話すように、大いに賛成します」と女性から届いたファクスには、孫のつらさがつづらわています。分散登校後、クラスの人数は元通りに。授業は次から次へと進み「冗談も一言も言えへん。こんなイヤ」と学校に行かない。たぶん、と登校しないつもりのおぼだ。精いっぱい抗議する小さな姿に、胸が痛みます。▼あるベテラン小学校教員は言います。「今子どもたちの声を聞かなか

たら、おとなは見捨てられる」。長期間の休校中、命と自分自身について考えざるを得なかった。そんな思いをくみとることもなく、医療従事者への感謝を一律に強制する動きも▼「ごめんね、大変だったよね」と聞き取ることで済ませよう、学校を安心の空間に。あとなどしてたぐさんの贈り物もこの時に。

「赤旗」日刊和歌山 3,497円/月 日曜版 930円/月